先輩まかせて会員さんへインタビュー

地域には、子育ての「ちょっと困った！」をあたたかく支えてくださる、まかせて会員さんがいます。今回は、活動歴 13 年のまかせて会員・宮本めぐみさんに、日々の活動の様子や活動への思いを伺いました。

～子どもたちの笑顔に癒されて～

お話いただいたのは・・・

まかせて会員
宮本　めぐみさん

2012 年に会員登録。これまでに 25 組のおねがい会員さんとマッチング。保育園や小学校、習い事への送迎、子どもの健診や保護者の通院に同行、おねがい会員さん宅での食事やお風呂の介助、第 1 子の行事の際には第 2 子を預かるなど、さまざまな依頼に柔軟に対応。子どもだけでなく保護者の方の気持ちにも丁寧に寄り添うお人柄に、厚い信頼が寄せられている。

子どもとは遊び友だち。
お母さんやお父さんとは、
ママ友・パパ友になれたら
いいなぁ。

13 歳のベルちゃん。
相性のいいお子さんとは一緒に過ごすことも。

まかせて会員さんになろうと思われたきっかけは？

2012 年の春に退職し、時間ができたので「自分にできる範囲で、人に喜ばれることをしたい」と思い、まかせて会員養成講座を受講しました。

これまでの援助の中で、特に印象に残っている援助は？

小 1 の秋から小 6 まで、6 年間にわたり行った A 君の援助です。最初は、学童へのお迎え後にいったん自宅で預かり、別の学童へ送る週 2 回の援助からスタート。その後、学年が上がるごとにスイミングや硬筆、塾が加わり、小 6 のときには週 5 回になりました。

1 年生のころ

6 年生のころ

最初は素直だった A 君も、学年が進むにつれ、遊びに夢中で車に乗らなかったり、眠って降りなかったりと、ハプニングが増えていきました。そんなときはお母さんに相談し、一緒に対応を考えました。

大変なこともありましたが、移動中は A 君との大切な語らいのひととき。学校行事での活躍やスイミングの進級テスト、水泳大会での入賞、英検の合格など、嬉しい報告を聞かせてくれて、一緒に喜びを分かち合うことができました。この体験は、今の子どもとの関わりにも生きています。

援助内容が変化してきましたが、その経緯は？

A 君の援助が終了した後は、家族の闘病やコロナ禍もあり、しばらく活動を休止していました。日常が戻り、活動を再開する際には、センターに相談し、希望する援助内容を改めて確認。そのうえで、送迎の援助は夕方の交通量が多い時間帯の依頼が多く、家事の時間と重なり負担が大きいと感じるようになっていたため、「自宅周辺でできる昼間の援助なら」とお伝えしたのです。これにより対象が学童さんから乳幼児さんに変わり、楽しみが広がりました。

ことばがまだ出ていないお子さんでも、遊びながら「イヤ」「楽しい」「うれしい」と気持ちを表してくれるので、本当にかわいくて仕方ありません。少しでもお母さん・お父さんの助けになっていればうれしいです。

まかせて会員さんの活動の魅力とは？

小さな子に接すると、楽しかったことも、してあげられなかったことも含め、自分の子育てを思い出します。子どもからはエネルギーをもらえます。援助の日を楽しみにしてくれたり、笑ってくれたりするだけで嬉しいものです。

お迎えのときに「助かりました」「ありがとうございました」のことばをいただくと、活動してよかったと感じます。ご家族のほほえましい記念写真などを見せてもらえると、とてもしあわせな気持ちになり、ファミサポ冥利に尽きるなと思います。「ファミサポを通じて、社会とつながりながら生活できている」という実感があります。

まかせて会員さんとして心掛けていることは？

更年期の体調を整えながらの援助活動ですので、責任感を持ちつつ「自分にできる援助内容かどうか」をよく考え、無理をしないようにしています。

また、困ったことや不安なことがあれば、すぐにセンターに相談するようにしています。

ファミサポの利用をためらっている方へ

「このくらいのことで利用してもいいのかな？」「こんな利用は無理かな？」と思っても、自分で判断せずにセンターに相談してください。緊急時にも、迅速に対応してくださいます。

“遠くの身内より近所の他人”です。助けてくれる人は多いほど心強いものです。心と体にゆとりをもって子育てしてください。

まかせて会員さんの活動に興味がある方へ

最近は、第 2 子の妊娠・出産に合わせた依頼も増えています。第 1 子の援助の際に、生後まもない赤ちゃん（※ファミサポでは生後 6 か月までは援助対象外）のお顔を見られることもあり、命のぬくもりを感じます。

この子たちが安心して生きていける、思いやりのある平和な社会・世界であり続けることを、強く願わずにはいられません。あなたの心と時間を少しだけ、助けを必要としている親子に、プレゼントしませんか？